

2024年10月 東京地区百貨店売上高概況

2024年11月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,309億円余
2. 前年同月比(増減率)	-1.1%(2か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.0%(92.2%)：非店頭10.3%(7.8%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2024年9月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	672,061㎡ (前年同月比：-9.7%)
6. 総従業員数	12,494人 (前年同月比：-9.2%)
7. 3か月移動平均値	3-5月 12.9%、4-6月 14.8%、5-7月 13.7%、 6-8月 10.5%、7-9月 4.8%、8-10月 1.4%

[参考] 2023年10月の売上高増減率は8.0%

【特徴】

10月の東京地区は、売上高(1.1%減)、入店客数(9.0%減)共に前年を下回った。気温が下がらず秋物商戦が苦戦した他、日曜日1日減等も影響した。免税売上は中国の国慶節や韓国の大型連休による客数増もあり、8月以降減速傾向にあった伸び率は、再度増勢に転じた。また、外商催事等、各社の得意客向け施策も奏功した。商品別では身のまわり品を除く4品目が前年を下回った。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(1.6%減)：記録的な高気温で、この時期主力のコート等重衣料は低調だったが、ブルゾン、ジャケット等は好調に推移。中旬以降の気温低下と共に徐々に防寒アウターにも動き。婦人服・洋品はブラウス、ワンピース等が好調で2か月ぶりにプラス転換。

身のまわり品(3.2%増)：インバウンド需要から、ラグジュアリーブランドのハンドバッグやスーツケースが好調継続。婦人靴は、ブーツの動きは鈍かった一方で、スニーカーは好調に推移。紳士靴もビジネスは低調だがカジュアルは好調。

雑貨(2.3%減)：化粧品(11.2%増)は免税売上が押し上げ二桁増。スキンケア商品では日本国内メーカーのライン使い等、単品買いからのシフトが見られ客単価向上。美術・宝飾・貴金属は催事の期ずれ等もあり前年割れだが、時計は各社好調。

食料品(5.2%減)：生鮮食品や惣菜は物価高影響が大きく、食料品全体で4か月連続のマイナス。物産展や食品催事は各社好調。菓子は手土産他、気温低下でチョコレートが好調。

11月足元動向：気温低下に伴い重衣料が稼働し、前年比3.0%増(11/18時点)で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数15店舗)
 - ①増加した：7店、②変化なし：2店、③減少した：6店
- (3) 10月歳時記(秋物商戦、秋の行楽)の売上(同上/有効回答数7店舗)
 - ①増加した：2店、②変化なし：4店、③減少した：1店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	130,917,944	100.0	-1.1
紳士服・洋品	10,653,549	8.1	-5.0
婦人服・洋品	23,573,673	18.0	0.9
子供服・洋品	2,013,737	1.5	-3.1
その他衣料品	1,425,243	1.1	-13.1
衣 料 品	37,666,202	28.8	-1.6
身のまわり品	24,822,908	19.0	3.2
化粧品	12,343,565	9.4	11.2
美術・宝飾・貴金属	14,368,324	11.0	-7.9
その他雑貨	3,902,984	3.0	-16.1
雑 貨	30,614,873	23.4	-2.3
家 具	1,288,119	1.0	-17.3
家 電	926,387	0.7	27.0
その他家庭用品	2,793,493	2.1	-2.5
家 庭 用 品	5,007,999	3.8	-2.8
生 鮮 食 品	3,222,551	2.5	-5.8
菓 子	7,644,196	5.8	-3.2
惣 菜	6,982,718	5.3	-6.4
その他食料品	8,110,604	6.2	-5.6
食 料 品	25,960,069	19.8	-5.2
食 堂 喫 茶	2,056,661	1.6	-13.6
サ ー ビ ス	2,132,068	1.6	31.9
そ の 他	2,657,164	2.0	22.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,166,795 千円	-18.1
従 業 員 数	12,494 人	-9.2
店 舗 面 積	672,061 m ²	-9.7

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は身のまわり品はプラスとなったが、その他4品目はマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が38か月連続、婦人服・洋品が2か月ぶりにプラスとなった一方、紳士服・洋品、美術・宝飾・貴金属が2か月連続、生鮮食品が7か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-1.1	-	2か月連続マイナス
紳士服・洋品	-5.0	-0.4	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	0.9	0.2	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	-3.1	-0.0	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-13.1	-0.2	3か月連続マイナス
衣料品	-1.6	-0.5	2か月連続マイナス
身のまわり品	3.2	0.6	38か月連続プラス
化粧品	11.2	0.9	38か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-7.9	-0.9	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-16.1	-0.6	2か月連続マイナス*
雑貨	-2.3	-0.6	2か月連続マイナス
家具	-17.3	-0.2	2か月ぶりマイナス
家電	27.0	0.1	3か月連続プラス
その他家庭用品	-2.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-2.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-5.8	-0.2	7か月連続マイナス*
菓子	-3.2	-0.2	4か月連続マイナス*
惣菜	-6.4	-0.4	4か月連続マイナス*
その他食料品	-5.6	-0.4	7か月連続マイナス*
食料品	-5.2	-1.1	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-13.6	-0.2	4か月連続マイナス
サービス	31.9	0.4	3か月ぶりプラス
その他	22.0	0.4	5か月連続プラス
商品券	-18.1	-0.2	8か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>